

金沢医科大学大学院学則

目次

第 1 章 総 則	(第 1 条—第 6 条)
第 2 章 修業年限、在学期間、学年及び学期等	(第 7 条—第 11 条)
第 3 章 教育方法等	(第 12 条—第 23 条)
第 4 章 課程修了要件及び学位授与	(第 24 条—第 27 条)
第 5 章 入学、入学資格、再入学及び転入学等	(第 28 条—第 35 条)
第 6 章 休学、復学、転学及び退学等	(第 36 条—第 40 条)
第 7 章 学納金	(第 41 条—第 43 条)
第 8 章 委託生、科目等履修生、外国人学生、特別聴講学生、特別研究学生及び専修生	(第 44 条—第 50 条)
第 9 章 賞 罰	(第 51 条—第 52 条)
第 10 章 教員組織	(第 53 条—第 54 条)
第 11 章 運営組織	(第 55 条—第 56 条)
第 12 章 大学学則等の準用	(第 57 条—第 58 条)
第 13 章 学則の改廃	(第 59 条)

金沢医科大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 金沢医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 本大学院に博士課程及び修士課程を置く。

(1) 博士課程は、専攻分野について、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(2) 修士課程は、専攻分野について、研究能力又は高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究等の活動状況について自主的に自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 自己点検・評価の実施体制等については、別に定める。

(研究科)

第3条 本大学院に医学研究科及び看護学研究科を置く。

(課程)

第4条 医学研究科に博士課程を置く。

2 看護学研究科に修士課程を置く。

(専攻)

第5条 医学研究科には次の専攻を置く。

生命医科学専攻

2 看護学研究科には次の専攻を置く。

看護学専攻

(定員)

第6条 本大学院の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

(1) 医学研究科

専攻名	入学定員	収容定員
生命医科学専攻	35	140

(2) 看護学研究科

専攻名	入学定員	収容定員
看護学専攻	6	12

第2章 修業年限、在学期間、学年及び学期等

(修業年限)

第7条 医学研究科の修業年限は、4年を標準とし、看護学研究科の修業年限は2年を標準とする。

2 看護学研究科の学生が、職業を有している等の事情により、前項に定める標準修業年限を越えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合には、その計画的な履修を認めることができる(長期履修制度)。

3 前項の長期履修制度については、別に定める。

(在学期間)

第8条 在学期間は、標準修業年限の2倍を超えることができない。

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年は、次の学期に分ける。

- (1) 前期 4月1日から9月30日まで
 - (2) 後期 10月1日から3月31日まで
- 2 学長は、授業の開始終了について、必要に応じて変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日「国民の祝日に関する法律」(法178号)に基づく休日
 - (3) 開学記念日 6月1日
 - (4) 休業(春季、夏季、冬季)については別に定める。
- 2 必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

第3章 教育方法等

(教育方法)

第12条 本大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する研究指導によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第13条 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(履修方法等)

第14条 本大学院における授業科目、配当単位数及び履修方法は医学研究科においては別表-1のとおりとし、看護学研究科においては別表-2のとおりとする。

2 その他必要な事項は別に定める。

(専門医等養成系)

第15条 医学研究科に次の専門医等養成系を置く。

- (1) 北陸がんプロフェッショナルがん専門医養成系 (以下「北陸がん専門医系」)
 - (2) 北信がんプロフェッショナルがん専門医養成系 (以下「北信がん専門医系」)
 - (3) 次世代北信がんプロフェッショナルがん専門医養成系 (以下「次世代北信がん専門医系」)
 - (4) 北陸認知症プロフェッショナル医養成系 (以下「認知症専門医系」)
 - (5) 先駆的臨床法医学者養成系 (以下「先駆的臨床法医系」)
- 2 各専門医等養成系に定めるプログラムを履修することができる学生は、別に選考する。
- 3 第1項第1号、第2号及び第3号において、所定の単位を修得し、本大学院を修了した者には、がんプロフェッショナル認定医の申請資格を与える。
- 4 認知症専門医系及び先駆的臨床法医系において、所定の単位を修得し、本大学院を修了した者には、修了認定証を交付する。
- 5 各専門医等養成系に関する必要な事項は、別に定める。

(履修科目の選定及び届出)

第16条 履修する授業科目の選定は、研究指導教員の承認を得て学長に届け出るものとする。

(他の大学院における履修等)

第17条 教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院において履修した授業科目について修得した単位は、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、医学研究科は4単位を超えないものとし、看護学研究科は10単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第18条 教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の研究指導の期間は、課程修了の要件となる研究指導として認定することができる。

3 他の大学院等における研究指導を受ける期間は、原則として1年を超えないものとする。

(外国留学)

第19条 教育上有益と認めるときは、外国の大学院等に留学することができる。

2 前項の場合、第18条を準用する。

3 留学の期間は、原則として1年を超えないものとする。

(試験)

第20条 正規の授業を受け、所定の科目を履修した者に対し、所定の期間内に試験を行う。ただし、科目試験によることなく平素の成績及びレポート等による評価を行うことができる。

2 試験の実施方法等については、別に定める。

(追試験)

第21条 疾病その他やむを得ない理由によって試験を受けられなかった者は、追試験を受けることができる。

(成績の評価)

第22条 第20条の規定に基づく試験の成績は、優・良・可及び不可とし、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。

(単位の認定)

第23条 前条の規定により試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第4章 課程修了要件及び学位授与

(課程の修了要件)

第24条 医学研究科博士課程の修了要件は、当該研究科に4年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2 前項の規定にかかわらず、優れた研究業績をあげた場合は、在学期間を3年以上とすることができる。

3 看護学研究科修士課程の修了要件は、当該研究科に2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。

4 前項の規定にかかわらず、優れた研究業績をあげた場合は、在学期間を1年以上とすることができる。

5 第3項に規定する学位論文の審査は、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（課題研究論文）の審査をもって学位論文の審査に代えることができる。

(学位規程)

第25条 学位論文の審査及び試験の方法、その他学位に関する事項は別に定める金沢医科大学学位規程（以下「学位規程」という。）による。

(研究科の課程修了による学位)

第26条 医学研究科の博士課程を修了した者には、学位規程の定めるところにより、博士（医学）の学位を授与する。

2 看護学研究科の修士課程を修了した者には、学位規程の定めるところにより、修士（看護学）の学位を授与する。

（博士課程によらない学位）

第27条 博士課程を経ない者で、学位規程の定めるところにより、学位論文を提出し、その審査及び試験に合格した者には、博士（医学）の学位を授与する。

第5章 入学、入学資格、再入学及び転入学等

（入学）

第28条 入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）

第29条 本大学院医学研究科博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1）学校教育法に定める大学の医学部、歯学部又は修業年限6年の獣医学部、薬学部を卒業した者
- （2）外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了した者
- （3）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- （4）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- （5）外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受け

た者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(6) 文部科学大臣の指定した者(昭和30年文部省告示第39号)

(7) 本大学院が個別の入学資格審査を行い、大学の医学部、歯学部又は修業年限6年の獣医学部、薬学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

2 本大学院看護学研究科修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 本大学院が個別の入学資格審査を行い、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

(5) 本大学院が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学志願の手続)

第30条 入学を志願する者は、入学願書に所定の書類及び別表一3に定める入学検定料を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。

2 既に納入した入学検定料は、返還しない。

(入学者の選考)

第31条 入学志願者に対しては、選考を行う。

(入学手続、入学許可)

第32条 入学の選考に合格した者は、所定の入学手続書書類に、入学金及びその他所定の納入金を添えて、指定の期日までに入学手続きを完了しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に、入学を許可する。

(再入学)

第33条 本大学院を退学した者で、再び入学を志願する者には、退学後2年以内に志願をした場合に限り、欠員があり教育研究に支障がない場合は、選考のうえこれを許可することがある。

2 再入学者の入学年次及び修業年限その他必要事項は、当該研究科教授会の審議を経て、学長が決定する。

(転入学)

第34条 他の大学院に在学する者が、本大学院に転入学しようとするときは、当該学長の紹介状を付し、学長に願い出なければならない。

2 前項の場合は、欠員があるときに限り、選考のうえ許可することがある。

3 転入学した者が在学すべき年数及び履修の必要な単位数その他必要事項は、当該研究科教授会の審議を経て、学長が決定する。

(主科目の変更)

第35条 主科目（主として履修する科目）の変更は、教育研究に支障がないときは学年の始めに限り、選考のうえこれを許可することがある。

2 変更を許可された者の修業年限、授業科目その他必要事項は、

当該研究科教授会の審議を経て、学長が決定する。

第6章 休学、復学、転学及び退学等

(休学)

第36条 学生が次の場合、学長の許可を得て、休学することができる。

(1) 病気その他やむを得ない理由のため、引き続き3か月以上就学不能なとき。

(2) その他特別の理由があるとき。

2 病気その他の理由により学修することが不相当と認められる学生に対しては、学長は休学を命ずることができる。

3 休学期間は、その年度末までの1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、さらに1年度以内に限り休学を認めることができる。

4 休学期間は、在学期間に算入しない。

(復学)

第37条 休学の期間満了又は休学期間であってもその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第38条 学生が他の大学院に転学しようとするときは、その理由を付し学長の許可を得なければならない。

(退学)

第39条 学生が退学しようとするときは、その理由を付し学長に願い出て、許可を得なければならない。

(除籍)

第40条 学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長がこれを除籍することができる。

- (1) 死亡が確認された者又は行方不明の者
- (2) 所定の在学期間を超えた者
- (3) 所定の休学期間を超えて、なお復学できない者
- (4) 授業料その他の学納金を督促してもなお納付しない者

第7章 学納金

(入学金及び授業料等)

第41条 本大学院における入学金及び授業料等は、別表－4のとおりとする。「授業料等」とは、医学研究科においては、授業料、教育充実費及び実験実習費、看護学研究科においては、授業料及び教育充実費をいう。

2 第7条第2項の規定により、標準修業年限を越えて計画的な履修を認められた者については、別に定める。

3 授業料等は、別表－5に定める期日までに納入しなければならない。

(授業料等の減免)

第42条 学長は、特に優秀な学生に対して授業料等を減免することができる。

2 授業料等の減免に関する事項は、別に定める。

(休学中及び停学中の授業料等)

第43条 休学中及び停学中の授業料等は徴収する。ただし、学期の初日から末日まで休学する場合の授業料等は、授業料及び教育充実費の半額を徴収する。

2 前期に退学した場合は、後期の授業料等は徴収しない。

第8章 委託生、科目等履修生、外国人学生、特別聴講学生、特別研究学生及び専修生

(委託生)

第44条 国又は地方公共団体から一定の在学期間と履修学科目とを定めて入学委託の願い出があるときは、選考のうえ委託生として入学を許可することがある。

2 委託生の入学資格については、本学則第29条の規定を準用する。

3 委託生は、その履修した学科目について試験を受けることができる。

4 試験に合格した者には、願い出によってその学科目の合格証明書を与える。

5 委託生に関する取扱いは、前各項のほか別に定める。

(科目等履修生)

第45条 大学院の授業科目について、本大学院の学生以外の者で、一又は複数の履修を願い出る者があるときは、選考のうえ、科目等履修生として許可することがある。

2 科目等履修生に関する取扱いは、別に定める。

(外国人学生)

第46条 本学則第29条の各号のいずれかに該当する資格があり、かつ、外国公館の証明する外国人は、選考のうえ、外国人学生として入学を許可することがある。

2 外国人学生の選考については、別に定める。

(委託生・科目等履修生及び外国人学生の本学則の準用)

第47条 委託生・科目等履修生及び外国人学生については、本学則の規定を準用する。ただし、委託生及び科目等履修生については、第6条から第8条まで及び第24条から第26条までの規定は適用しない。

(特別聴講学生)

第48条 他の大学院の学生で、当該他大学院との協議に基づき、本大学院における授業科目の履修を志願する者があるときは、学長の許可を得て、本大学院の特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生に関する取扱いは、別に定める。

(特別研究学生)

第49条 他の大学院の学生で、当該他大学院との協議に基づき、本大学院における研究指導を受けようとする者があるときは、学長の許可を得て、本大学院の特別研究学生として許可することができる。

2 特別研究学生に関する取扱いは、別に定める。

(専修生)

第50条 本大学院医学研究科の専修生として入学を願い出る者があるときは、選考のうえ、学長の許可を得て許可することがある。

2 専修生に関する取扱いは、別に定める。

第9章 賞罰

(表彰)

第51条 人物及び学業が特に優秀な者は、学長がこれを表彰することがある。

(懲戒)

第52条 学生の懲戒は、当該研究科教授会の審議を経て、学長がこれを行う。

2 懲戒に関する規程は、別に定める。

第10章 教員組織

(教員組織)

第53条 本大学院における授業及び研究指導は、研究科の教授、准教授、講師及び助教がこれを担当する。

(研究科長)

第54条 医学研究科に医学研究科長、看護学研究科に看護学研究科長を置く。

2 研究科長の選考については、別に定める。

3 研究科長は、学長指示のもとに当該研究科の校務をつかさどり、所属職員を統括し教育及び研究の責に任ずる。

第11章 運営組織

(研究科教授会)

第55条 本大学院の医学研究科に医学研究科教授会、看護学研究科に看護学研究科教授会を置く。

2 医学研究科教授会は、金沢医科大学大学院医学研究科教授会規程第2条の規定により組織し、看護学研究科教授会は金沢医科大学大学院看護学研究科教授会規程第2条の規定により組織する。

3 医学研究科教授会及び看護学研究科教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第56条 医学研究科教授会及び看護学研究科教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2 医学研究科教授会及び看護学研究科教授会は、前項に規定する

もののほか、学長及び研究科長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第12章 大学学則等の準用

(大学学則の準用)

第57条 本学則に定めのない事項については、金沢医科大学学則を準用する。この場合において、同学則中「本学」とあるのは「本大学院」と、「教授会」とあるのは「当該研究科教授会」と読み替えるものとする。

2 金沢医科大学学則の準用によりがたい場合は、別に定める。

(学生心得の準用)

第58条 本大学院学生に対しては、金沢医科大学学生心得の規定を準用する。この場合において、同学生心得中「本学」とあるのは「本大学院」と、「学生部長」とあるのは「当該研究科長」と読み替えるものとする。

第13章 学則の改廃

第59条 この学則の改廃は学長が発議し、当該研究科教授会の審議を経て、理事会の承認を得てこれを行う。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成3年6月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成3年8月19日から施行し、平成3年7月11日から適用する。

附 則

この改正学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成11年9月1日から施行し、平成12年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成15年4月1日において現に金沢医科大学の大学院生である者（第1年次に在籍する者を除く。）及びこれらの者と同一の年次に転入学又は再入学する者に係る所属専攻については、この学則による改正後の金沢医科大学大学院学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成18年4月1日から施行する。

- 2 医学研究科生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻については、平成18年3月31日付で廃止する。

附 則

この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、科目等履修生の履修する別表－2については、平成20年1月1日から適用する。
- 2 平成20年3月31日に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この改正学則は、この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、第9条の2第2項別表－2については、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この改正学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成23年9月1日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この改正学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第14条に規定する別表－1及び第15条の改正規定について

は、平成25年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正学則は、令和6年4月1日から施行する。

2 第14条に規定する別表-1及び第15条の改正規定については、令和6年度入学生から適用する。

別表—1（第14条関係）

医学研究科の授業科目、配当単位数及び履修方法

専攻	科目	授業科目	単位数	
生命科学医学科	専攻	生体機能形態医学分野	分子細胞形態科学講義	4
			分子細胞形態科学演習	4
			分子細胞形態科学実験実習	4
			細胞生物学講義	4
			細胞生物学演習	4
			細胞生物学実験実習	4
			腫瘍病理学講義	4
			腫瘍病理学演習	4
			腫瘍病理学実験実習	4
			病理病態学講義	4
			病理病態学演習	4
			病理病態学実験実習	4
			免疫生物学講義	4
			免疫生物学演習	4
			免疫生物学実験実習	4
			病態診断医学講義	4
			病態診断医学演習	4
			病態診断医学実験実習	4
			先進医療学講義	4
			先進医療学演習	4
			先進医療学実験実習	4
			放射線診断治療学講義	4
			放射線診断治療学演習	4
			放射線診断治療学実験実習	4
			消化器機能治療学講義	4
			消化器機能治療学演習	4
			消化器機能治療学実験実習	4
			消化器外科治療学講義	4
			消化器外科治療学演習	4
			消化器外科治療学実験実習	4
			運動機能病態学講義	4
			運動機能病態学演習	4
			運動機能病態学実験実習	4
			機能再建外科学講義	4
			機能再建外科学演習	4
			機能再建外科学実験実習	4
			顎口腔機能病態学講義	4
			顎口腔機能病態学演習	4
			顎口腔機能病態学実験実習	4
			感覚機能病態学講義	4
感覚機能病態学演習	4			
感覚機能病態学実験実習	4			
視覚機能病態学講義	4			
視覚機能病態学演習	4			
視覚機能病態学実験実習	4			
腫瘍内科学講義	4			
腫瘍内科学演習	4			
腫瘍内科学実験実習	4			

専攻	科目	授業科目	単位数
生命科学医科学	専門制御医学分野	ゲノム医科学講義	4
		ゲノム医科学演習	4
		ゲノム医科学実験実習	4
		生体情報薬理学講義	4
		生体情報薬理学演習	4
		生体情報薬理学実験実習	4
		生理機能制御学講義	4
		生理機能制御学演習	4
		生理機能制御学実験実習	4
		循環制御学講義	4
		循環制御学演習	4
		循環制御学実験実習	4
		血液免疫制御学講義	4
		血液免疫制御学演習	4
		血液免疫制御学実験実習	4
		呼吸機能治療学講義	4
		呼吸機能治療学演習	4
		呼吸機能治療学実験実習	4
		先進呼吸器外科学講義	4
		先進呼吸器外科学演習	4
		先進呼吸器外科学実験実習	4
		心血管外科学講義	4
		心血管外科学演習	4
		心血管外科学実験実習	4
		臨床神経学講義	4
		臨床神経学演習	4
		臨床神経学実験実習	4
		脳神経治療学講義	4
		脳神経治療学演習	4
		脳神経治療学実験実習	4
		腎機能治療学講義	4
		腎機能治療学演習	4
		腎機能治療学実験実習	4
		泌尿生殖器治療学講義	4
		泌尿生殖器治療学演習	4
		泌尿生殖器治療学実験実習	4
		内分泌代謝制御学講義	4
		内分泌代謝制御学演習	4
		内分泌代謝制御学実験実習	4
		侵襲制御学講義	4
侵襲制御学演習	4		
侵襲制御学実験実習	4		
再生医療学講義	4		
再生医療学演習	4		
再生医療学実験実習	4		

専攻	科目	授業科目	単位数
生命科学医学科分野	専門科目	社会環境保健医学講義	4
		社会環境保健医学演習	4
		社会環境保健医学実験実習	4
		健康増進予防医学講義	4
		健康増進予防医学演習	4
		健康増進予防医学実験実習	4
		生体感染防御学講義	4
		生体感染防御学演習	4
		生体感染防御学実験実習	4
		分子腫瘍学講義	4
		分子腫瘍学演習	4
		分子腫瘍学実験実習	4
		環境皮膚科学講義	4
		環境皮膚科学演習	4
		環境皮膚科学実験実習	4
		生殖周産期医学講義	4
		生殖周産期医学演習	4
		生殖周産期医学実験実習	4
		発生発達医学講義	4
		発生発達医学演習	4
		発生発達医学実験実習	4
		生体分子解析学講義	4
		生体分子解析学演習	4
		生体分子解析学実験実習	4
		臓器機能再建学講義	4
		臓器機能再建学演習	4
		臓器機能再建学実験実習	4
		高齢医学講義	4
		高齢医学演習	4
		高齢医学実験実習	4
		総合内科学（地域医療学）講義	4
		総合内科学（地域医療学）演習	4
		総合内科学（地域医療学）実験実習	4
		総合内科学（生活習慣病学）講義	4
		総合内科学（生活習慣病学）演習	4
		総合内科学（生活習慣病学）実験実習	4
		精神神経科学講義	4
		精神神経科学演習	4
		精神神経科学実験実習	4
		法医学講義	4
		法医学演習	4
		法医学実験実習	4
		医学教育学講義	4
医学教育学演習	4		
医学教育学実験実習	4		
臨床感染症学講義	4		
臨床感染症学演習	4		
臨床感染症学実験実習	4		

専攻	科目	授業科目	単位数	
生命科学医学科	共通科目	生命倫理学	1	
		医学統計学	1	
		疫学・臨床疫学	1	
		分子生物学入門	1	
		実験動物学	1	
		医学研究セミナー	1	
		英語論文作成法	1	
		研究倫理	1	
		産学連携ガイダンス	1	
		大学教員養成プログラム	1	
	研特別	生命医科学特別研究	6	
生命科学医学科	北陸がん専門医養成系 がん専門医養成系	必修科目	腫瘍薬物学特論	1
			腫瘍放射線医学特論	1
			がん緩和医療学特論	1
			腫瘍病理学特論	1
			臨床腫瘍学特論	1
			がん外科学特論	1
			腫瘍薬物学演習	1
			腫瘍放射線医学演習	1
			がん緩和医療学演習	1
			腫瘍病理学演習	1
臨床腫瘍学演習	1			
がん外科学演習	1			
	選択科目	分子腫瘍学特論	1	
臨床統計学特論		1		
臨床栄養学特論		1		
臨床統計学演習		1		
分子生物学入門		1		
生命科学医学科	北信がん専門医養成系 がん専門医養成系	必修科目	がんゲノム医療特論	1
			小児・AYA・希少がん特論	1
			ライフステージに応じたがん医療特論	1
			在宅緩和ケア特論	1
			腫瘍薬物学特論	1
			腫瘍放射線医学特論	1
			がん緩和医療学特論	1
			腫瘍病理学特論	1
			臨床腫瘍学特論	1
			がん外科学特論	1
	選択科目	分子腫瘍学特論	1	
分子生物学入門		1		
臨床栄養学特論		1		
臨床統計学特論		1		
臨床統計学演習		1		
がんライフステージ演習		1		
腫瘍薬物学演習		1		
腫瘍放射線医学演習		1		
がん緩和医療学演習		1		
腫瘍病理学演習		1		
臨床腫瘍学演習	1			
がん外科学演習	1			

専攻	科目		授業科目	単位数
生命科学医学科	次世代北信がんプロフェッショナルがん専門医養成系	必修科目	がん医療現場の課題特論	1
			がん予防推進特論	1
			新規治療法開発特論	1
			がんゲノム医療特論	1
		選択科目	小児・AYA・希少がん特論	1
			ライフステージに応じたがん医療特論	1
			在宅緩和ケア特論	1
			腫瘍薬物学特論	1
			腫瘍放射線医学特論	1
			がん緩和医療学特論	1
	北陸認知症プロフェッショナル医養成系		認知症基礎	1
			認知症症候学	1
認知症検査・診断学			1	
認知症治療・予防学			1	
認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理			1	
認知症各論Ⅰ			1	
認知症各論Ⅱ			1	
認知症特論			2	
研究倫理			1	
認知症診断・治療学演習Ⅰ			1	
認知症診断・治療学演習Ⅱ	1			
認知症診断・治療学演習Ⅲ	1			
認知症診断・治療学演習Ⅳ	1			
地域認知症疫学・予防・ケア実習	3			
認知症・神経難病の臨床病理実習	3			
先駆的臨床法医学系	法医学基礎科目	必修	臨床統計学特論	1
			病理病態学	1
			歯科口腔外科学	1
			未知の感染症	1
			法医学病理学	2
	選択科目		法医学Ⅰ	1
			虐待に関する法医学	1
			法医学	1
	法医学先端研究科目	選択Ⅰ	生体鑑定模擬演習①児童虐待	2
			生体鑑定模擬演習②薬物中毒	2
選択Ⅱ		生体鑑定模擬演習③感染症	2	
		生体鑑定模擬演習④法務実務	2	
		大学横断研究指導①ナノ技術による新死因論	2	
大学横断研究指導②小児虐待の臨床法医学研究	2			
大学横断研究指導③死後画像診断CT	2			

【履修方法】

- ・ 専門科目に設けた専門分野の中の1つの科目を主として履修する科目（以下「主科目」という。）として選択し、1年次又は2年次に講義4単位、演習4単位、実験実習4単位、計12単位を修得する。
- ・ 専門科目において、副として履修する科目（以下「副科目という。」）として異なる分野からそれぞれ1科目を選択し、講義各4単位、計8単位を1年次から3年次に修得する。
- ・ 共通科目から生命倫理学及び産学連携ガイダンスを含む4科目以上を選択し、1年次から3年次に4単位以上を修得する。
- ・ 特別研究として、2年次から4年次にかけて6単位を修得する。
- ・ 北陸がん専門医系においては、必修科目12単位の修得をもって副科目2科目に相当する8単位とし、選択科目3単位と、共通科目の生命倫理学及び産学連携ガイダンスの修得をもって共通科目4科目に相当する4単位とする。
- ・ 北信がん専門医系においては、必修科目10単位の修得をもって副科目2科目に相当する8単位とし、選択科目3単位と、共通科目の生命倫理学及び産学連携ガイダンスの修得をもって共通科目4科目に相当する4単位とする。
- ・ 次世代北信がん専門医系においては、指定する専門科目のうち1科目と、次世代北信がんプロ必修科目の4科目の修得をもって副科目に相当する8単位とし、次世代北信がんプロ選択科目から4科目以上と共通科目生命倫理学及び産学連携ガイダンスの修得をもって共通科目4科目に相当する4単位とする。
- ・ 認知症専門医系においては、8単位の修得をもって、副科目1科目に相当する4単位と共通科目の生命倫理学及び産学連携ガイダンスの修得をもって共通科目4科目に相当する4単位とする。
- ・ 先駆的臨床法医系においては、法医基礎科目必修6単位、法医基礎科目選択から1単位、法医学先端研究科目選択Ⅰから2単位計9単位の修得をもって、副科目1科目に相当する4単位と共通科目の生命倫理学及び産学連携ガイダンスの修得をもって共通科目4科目に相当する4単位とする。また、法医先端研究科目選択Ⅱの大学横断研究指導から2単位の修得をもって、特別研究6単位のうち2単位に相当とする。

以上の合計30単位以上を修得する。

別表一 2 (第 14 条関係)

看護学研究科の授業科目、配当単位数及び履修方法

専攻	科目		授業科目	単位数	
看護学	共通科目		看護研究概論	2	
			看護研究方法論	2	
			看護教育論	2	
			看護理論	2	
			看護管理論	2	
			コンサルテーション論	2	
			看護倫理	2	
			医療情報学	2	
			フィジカルアセスメント	2	
			臨床薬理学	2	
	病態生理学	2			
	専門科目	地域生活支援看護学領域	生活支援看護学分野	地域医療支援論	2
				地域ケアシステム論	2
				健康支援看護学特論	2
				健康支援看護学演習	4
				在宅支援看護学特論	2
				在宅支援看護学演習	4
				高齢者支援看護学特論	2
				高齢者支援看護学演習	4
				母子支援看護学特論	2
				母子支援看護学演習	4
療養支援看護学領域		療養支援看護学分野	セルフマネジメント支援論	2	
			家族看護論	2	
			慢性疾患看護学特論	2	
			慢性疾患看護学演習	4	
			クリティカルケア看護学特論	2	
クリティカルケア看護学演習	4				
精神看護学特論	2				
精神看護学演習	4				
高度実践看護学領域	クリティカルケア看護学分野	クリティカルケア看護学特論 A (危機とストレス管理)	2		
		クリティカルケア看護学特論 B (代謝病態生理)	2		
		クリティカルケア看護学特論 C (急性・重症患者治療管理論)	2		
		クリティカルケア看護学特論 D (援助関係論)	2		
		クリティカルケア看護学演習 A (緩和ケア)	2		
		クリティカルケア看護学演習 B (倫理調整)	2		
		クリティカルケア看護学演習 C (救急看護及び専門的看護実践)	2		
		クリティカルケア看護学実習 A (急性・重症患者包括的看護実践)	3		
		クリティカルケア看護学実習 B (チーム医療実践)	3		
		クリティカルケア看護学実習 C (組織包括的看護実践)	4		

専攻	科目			授業科目	単位数
看護学	専門科目	高度実践看護学領域	精神看護学分野	精神看護学特論A（歴史・法制度論）	2
				精神看護学特論B（精神看護理論）	2
				リエゾン精神看護論	2
				うつ病看護論	2
				精神看護学治療方法論A（精神・身体状態の評価と治療）	2
				精神看護学治療方法論B（各種療法）	2
				精神看護学援助技術論A（アセスメント・評価演習）	2
				精神看護学援助技術論B（多様な精神看護の介入演習）	2
				精神看護学実習A（役割機能・直接看護実習）	4
				精神看護学実習B（診断・治療実習）	2
				精神看護学実習C（サブスペシャリティ実習）	2
				精神看護学実習D（相談調整実習）	2
				研究科目	特別研究
	課題研究	2			

【履修方法】

- ・「地域生活支援看護学領域」は、共通科目8単位以上（看護研究概論、看護研究方法論は必修）、専門科目14単位以上、研究科目の特別研究8単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、修得する専門科目は、履修する専門科目について、主とする分野から10単位以上（演習科目を含むこと）と、他の分野から4単位以上修得すること。ただし、実習科目および課題研究の選択は認めない。
- ・「高度実践看護学領域」は、共通科目14単位以上（看護教育論、看護理論、看護管理論、コンサルテーション論、看護倫理から6単位以上、看護研究概論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学8単位必修）、各専門看護領域24単位、研究科目の課題研究2単位、合計40単位以上を修得し、かつ必要な指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特別研究の選択は認めない。

別表—3（第30条関係）

入学検定料

研究科	大学院生	外国人学生	委託生	科目等履修生	専修生
医学研究科	30,000円	50,000円	10,000円	10,000円	10,000円
看護学研究科	30,000円	50,000円	10,000円	10,000円	

別表—4（第41条関係）

医学研究科の入学金、授業料等

区 分	大学院生及び外国人学生		委託生	科目等履修生	専修生
入学金	200,000円				40,000円
授業料	前期	200,000円	1単位 15,000円	1単位 15,000円	240,000円
	後期	200,000円			
教育充実費	前期	50,000円			
	後期	50,000円			
実験 実習費	前期	100,000円			
	後期	100,000円			
摘 要	入学金については初年度のみ納入、授業料等については毎年度納入とする。				入学金については初年度のみ納入、授業料については毎年度納入とする。 但し、初年度の授業料については、入学月が8月以降の場合は160,000円、12月以降の場合は80,000円とする。

看護学研究科の入学金、授業料等

区分	大学院生及び 外国人学生		委託生	科目等 履修生
入学金	200,000円			
授業料	前期	200,000円	1単位 15,000円	1単位 15,000円
	後期	200,000円		
教育 充実費	前期	50,000円		
	後期	50,000円		
摘要	入学金については初年度のみ納入、授業料等については毎年度納入とする。			

別表一5（第41条関係）

授業料等の納入期日

研究科	区分	納入期日
医学研究科	前期分	前年度末日まで
	後期分	9月末日まで
看護学研究科	前期分	前年度末日まで
	後期分	9月末日まで

※ 初年度の授業料等の納入期日については、別に定める。